



2011 MAY No. 77

(事務局) (財)いも類振興会内
〒107-0052
東京都港区赤坂 6-10-41 ヴィップ赤坂 303 号室
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
<http://www.jrt.gr.jp>

目次	頁
長崎のじゃがいもの食事会の開催について	1
2010年世界農林業センサスからみた「いも類生産構造」の変化	2

長崎のじゃがいもの食事会の開催について

研究会会員 竹内正行

長崎のじゃがいもを用いた試食会を計画しました。ご参加ください。なお、本食事会については日本いも類研究会会員発案事業として実施する見込みです。

日時：6月25日 (土曜日) 11時30分～15時

場所：日本橋浜町イタリアレストラン「アルポンテ」 <http://www.alponte.jp/>
東京都中央区日本橋浜町2-4-3 TEL03-3666-4499

試食予定品種：ニシユタカ、デジマ、アイノアカ、普賢丸、アイユタカ、
西海31号、西海30号など

アンケート実施：会場にて、試食アンケートを行いますので、ご協力をお願いいたします。
アンケート結果などについては、後日、JRTWeb で公表します。

会費：5,000円 (税込み) (飲み物、個人負担)

定員：20名
ただし、募集人数を超えた場合は、先着順になります。

締め切り：6月3日 (金曜日)
ただし、募集人数を超えた場合は、その時点で終了いたします。

申込先：poteto1212@gmail.com (竹内)

2010年世界農林業センサスからみた「いも類生産構造」の変化

研究会会員 矢野哲男

3月末に2010年世界農林業センサス結果（確定値）の概要が公表されました。この調査はFAO（国連食糧農業機関）の指針に基づいて、我が国農林業の基本構造を5年ごとに全数調査で把握するもので、今回で13回目になります。詳細な結果は、今後、報告書として刊行（ホームページでも公開）されますが、今回、いも類（甘しょ及び馬鈴しょ）の生産構造の変化について簡単に紹介したいと思います。

1. 作付け農家数は大きく減少

センサスで作付状況などを詳細に調査するのは、経営規模が30a以上、もしくは年間の農産物販売金額が50万円以上の農家（販売農家）等です。この販売農家の数は全体では、5年前と比べて16.9%減少して163万戸となっていますが、いも類を販売目的で作付けした農家の減少率は、甘しょで▲45.2%、馬鈴しょで▲43.4%と非常に大きなものとなっています。（表1）

2. 作付面積は、ほぼ横ばい

センサスとは別に実施している作物統計でみると、5年前と比べて甘しょでは微増（0.7%）、馬鈴しょでは緩やかに減少（▲4.9%）となっています。センサスでは販売農家のみが調査対象なので、実面積は作物統計の6割～8割となっていますが、傾向は同じです。（表1）

表1 主要作物の1戸当り作付面積の推移（2000～2010） （単位：千戸、千ha、%）

		2000	2005	2010	2010/2005
甘しょ	作付農家数(千戸)	88.5	84.6	46.3	▲45.2
	作付面積(千ha)	23.7	23.1	23.4	1.2
	〃(作物統計)	43.4	40.8	40.5	(0.7)
	1戸当り作付面積(ha)	0.27	0.27	0.50	1.9倍
馬鈴しょ	作付農家数(千戸)	163.4	163.9	92.7	▲43.4
	作付面積(千ha)	73.6	65.3	63.2	▲3.1
	〃(作物統計)	97.7	87.2	82.9	(▲4.9)
	1戸当り作付面積(ha)	0.45	0.40	0.68	1.7倍
水稻	作付農家数(千戸)	1,744.2	1,402.3	1,159.3	▲17.3
	作付面積(千ha)	1,469.5	1,347.6	1,218.8	▲9.6
	〃(作物統計)	1,788.0	1,701.0	1,624.0	(▲4.5)
	1戸当り作付面積(ha)	0.84	0.96	1.05	1.1倍
小麦	作付農家数(千戸)	91.5	86.1	43.012	▲50.1
	作付面積(千ha)	148.6	180.1	1,599.8	▲11.2
	〃(作物統計)	168.8	212.6	2,083.0	(▲2.0)
	1戸当り作付面積(ha)	1.62	2.09	3.72	1.8倍
大豆	作付農家数(千戸)	158.3	152.3	93.8	▲38.4
	作付面積(千ha)	56.6	76.6	71.2	▲7.0
	〃(作物統計)	108.2	136.8	145.4	(▲6.3)
	1戸当り作付面積(ha)	0.36	0.50	0.76	1.5倍

資料：農林業センサス（販売農家が調査対象）、作物統計

3. 1戸当たりの作付面積規模は急増

上記の結果として1戸当たりの作付面積規模は、甘しょで0.27haから0.50haへと1.9倍に、馬鈴しょでは0.40haから0.68haへと1.7倍に、それぞれ大きく拡大しています。主な都道府県についてみると、甘しょは茨城、千葉、宮崎、鹿児島で1.5倍、徳島、熊本では1.3倍に、馬鈴しょは北海道、千葉、長崎、鹿児島では1.2～1.4倍、茨城では2.0倍と規模拡大が進んでいます。（表2）

表2 1戸当たり作付面積の推移(都道府県別)

1. 甘しょ

(単位:ha/戸、kg/10a、千トン)

都道府県	2000	2005	2010	2010/2005	21年産	
					単収	収穫量
茨城	0.66	0.75	1.09	1.5	2730	177.7
千葉	0.40	0.38	0.58	1.5	2540	121.7
徳島	0.65	0.68	0.88	1.3	2620	31.7
熊本	0.39	0.45	0.60	1.3	2330	28.9
宮崎	0.66	0.92	1.40	1.5	2840	92.6
鹿児島	0.60	0.80	1.16	1.5	2930	416.1

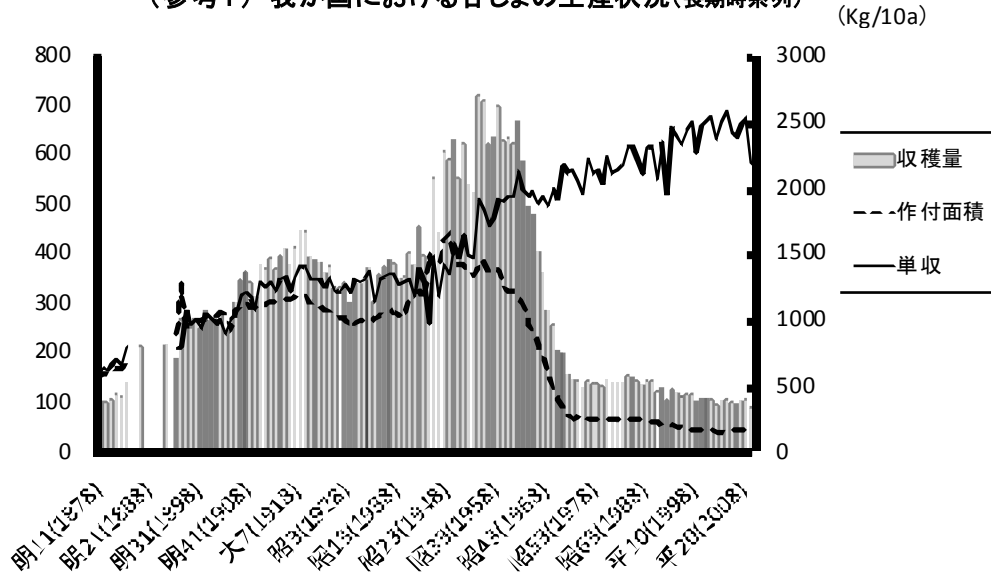
2. 馬鈴しょ

(単位:ha/戸、kg/10a、千トン)

都道府県	2000	2005	2010	2010/2005	21年産	
					単収	収穫量
北海道	3.92	4.22	4.91	1.2	3460	1879.0
茨城	0.18	0.17	0.34	2.0	2770	40.7
千葉	0.14	0.12	0.17	1.4	2330	33.3
長崎	0.54	0.54	0.67	1.2	2420	98.7
鹿児島	0.41	0.50	0.65	1.3	2020	83.7

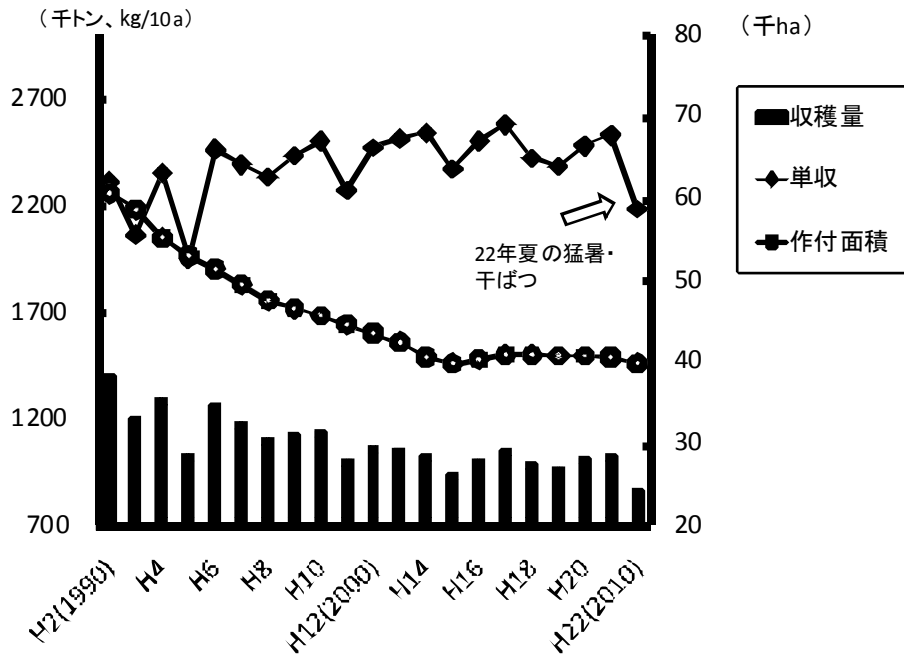
この紙面ではご紹介できませんでしたが、今回のセンサス結果には、いわゆる昭和1桁世代の方々のリタイアの動きが明確に現れていますので、いも類についても、そのような動きを反映して作付規模の拡大が進んでいるものと思われます。以上、ごく簡潔にセンサス結果をご紹介しましたが、いも類は自家用に栽培する農家も多く、また家庭菜園で栽培される方も多いことにも留意する必要があると思います。

(万トン、千ha) (参考1) 我が国における甘しょの生産状況(長期時系列)



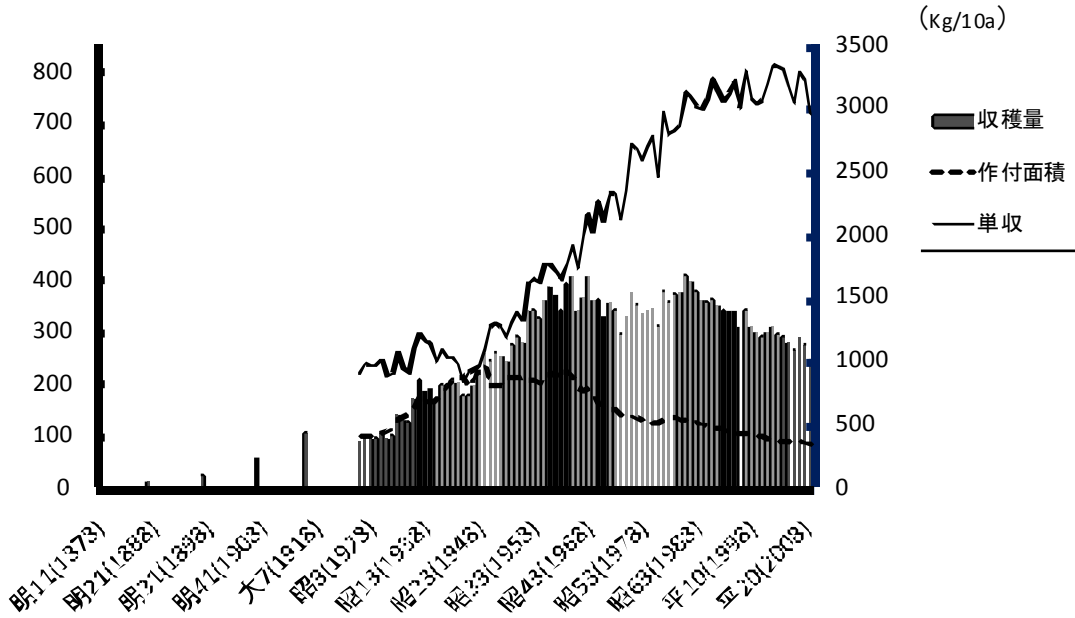
単収は継続して向上しているが、作付面積、収穫量は高度成長期の1960年代に急減。

(参考2) 甘しょの生産状況 (1990~)



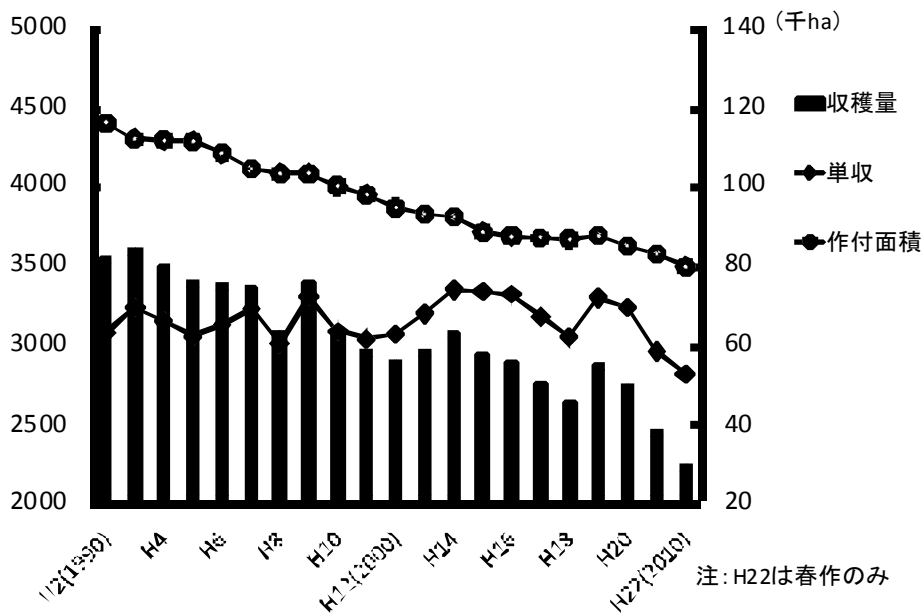
単収は緩やかに上昇。作付面積は平成14年まで減少した後、約4万haで横ばい。収穫量も同様であるが、22年夏の猛暑・干ばつで収穫量は大きく減少。

(万トン、千ha) (参考3) 我が国における馬鈴しょの生産状況(長期時系列)



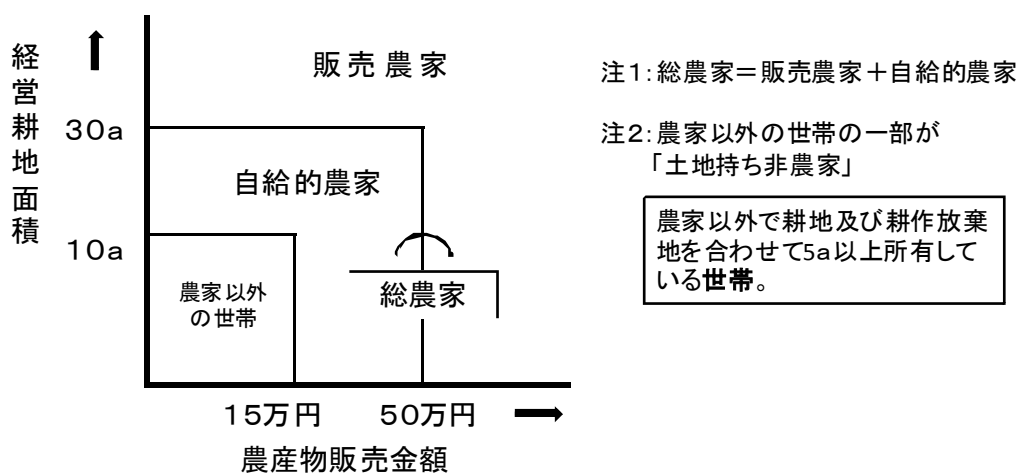
単収は継続して向上してきたが近年は横ばい。作付面積、収穫量は緩やかな減少傾向。

(千トン、kg/10a) (参考4) 馬鈴しょの生産状況(1990~)



単収は、ほぼ横ばい。作付面積は減少傾向にあり、収穫量もそれに伴って減少。

(参考5) 農家の定義(総農家、販売農家、自給的農家等)



用語	定義
農家	経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯、又は経営耕地が10a未満であっても調査期日前1年間の農産物販売金額が15万円以上あった世帯。
販売農家	経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。
自給的農家	販売農家以外の農家(経営耕地面積が30a未満で、かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。)

7

~~~~~  
編集後記【閑話】

東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

当地仙台では、ほぼ日常の生活に戻つつありますが、市街地から10kmも離れていない沿岸部では、未だ瓦礫との戦いが続いている状況です。しかしながら、復旧から復興への歩みを感じられるようになってきたこのごろです。